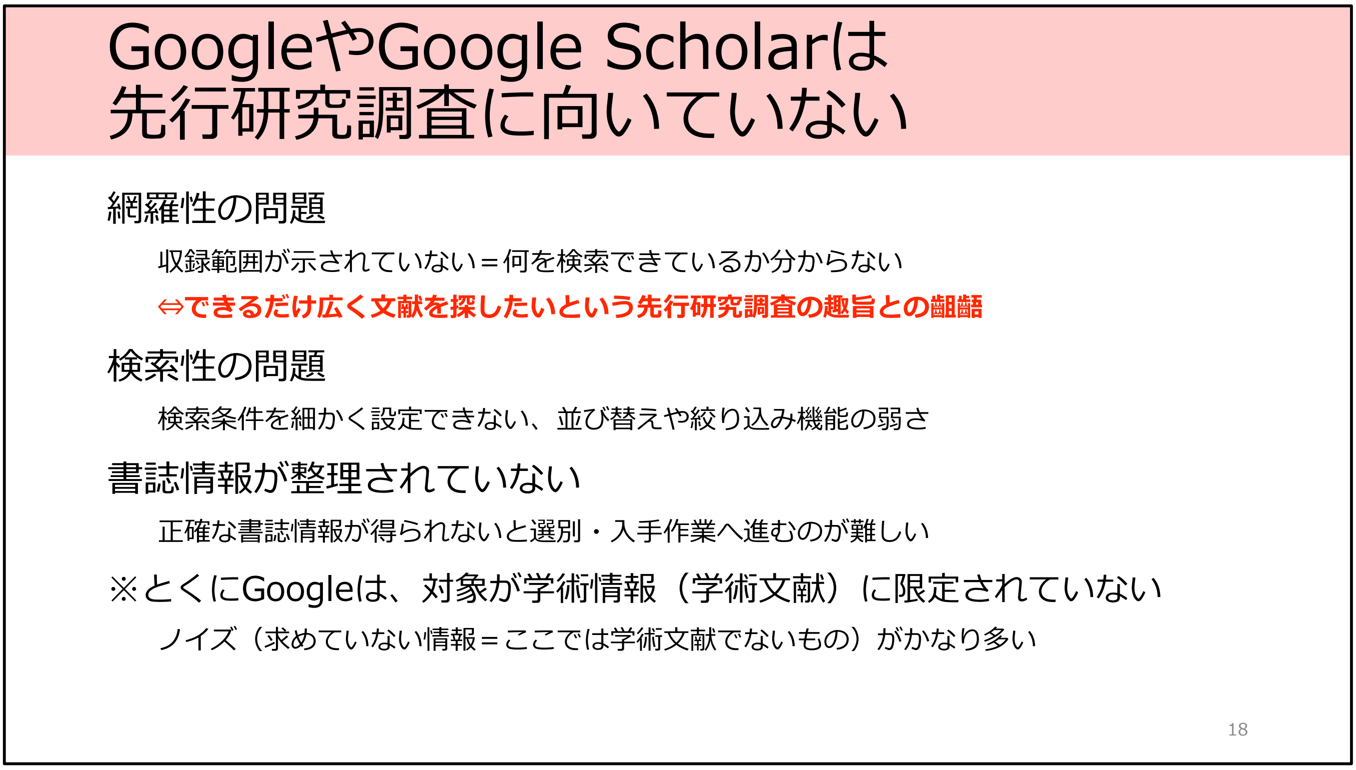
3.文献データベースについて（概要）

この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。



文献の「検索」と聞くと、まずGoogle、Google Books、Google Scholarを思い浮かべる方も多いかもしれませんが、先行研究調査という目的で使用するには、問題が3つあります。
1つ目は、網羅性の問題です。Google Scholarなどでは、どのような文献を収録対象としているのか、その基準が公開されておらず、ブラックボックスとなっています。
重要文献が収録対象から漏れている可能性を排除できません。
2つ目は、検索性の問題です。検索条件を細かく設定できなかったり、並び替えや絞り込み機能が弱かったりします。また、検索結果の上位に表示される文献がどういうふうに選ばれているのか、こちらも基準が公開されていないので分かりません。
3つ目は、書誌情報が整理されていないことです。書誌情報というのは、論文のタイトル、著者名、掲載雑誌名、出版年などのことを指します。
表示される書誌情報がばらばらなため、検索結果から必要な文献を選ぶのが難しいことがあります。また、書誌情報が不十分なものも含まれているため、その情報だけでは文献を入手するのが難しい場合もあります。

とくにGoogleは学術情報を探すためのものではありませんので、ノイズが多すぎるという問題があります。
情報が全く見つからず困ったときや、何から学習を始めればよいか分からないときに、Google BooksやGoogle Scholarは役立つこともありますが、あくまで補

助的なツールとしてお使いください。

生成AIツールは 先行研究調査に向いていない

便利な生成AIツールだが、文献検索への導入にあたっては注意すべきポイントが複数ある

- ハルシネーション（Hallucination、誤情報の出力）
- 網羅性（必ずしもその分野の重要文献が提示されるわけではない）
- 送受信したデータの取扱い

学術論文検索が得意なAIツールは複数存在する。しかし……

- 上記の問題からは逃れられない

補助的なツールとしてご利用ください

ChatGPTやGemini、Copilotなどの生成AIは、Web検索結果を取り入れた回答、情報の要約、音声入力対応などの機能もあって、調べものに便利です。しかし、先行研究調査に使うには注意が必要です。
1つ目は、誤情報のリスクがあります。実在しない文献をもっともらしく示す「ハルシネーション」が起きることがあります。回答内容の裏付けが必須です。
2つ目は、網羅性に問題があります。参照データや検索結果の選定基準が不透明で、重要な文献が漏れてしまう恐れがあり、情報の偏りがある可能性があります。
3つ目は、プライバシーの懸念があります。入力内容がツール提供者に共有される可能性があり、未発表の研究内容などの取り扱いには注意が必要です。

ElicitやScispaceなどの論文検索AIツールも同様の課題を抱えています。
そのため、生成AIも、未知の分野を調査するときや検索キーワードが思いつかないときの補助的ツールとして、調査のとっかかりをつかんだり、調査後に抜け漏れがないか確認する　といった用途での利用にとどめるのが適切です。

対象に応じてツールを使い分ける

学術文献の検索に特化したデータベースが多数存在する

- 阪大で契約しているデータベースは有料のものも多い

学術文献も対象によって使う文献データベースが異なる

- 区分としては…研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文

使い分けの必要がある、というのは一般の情報検索と同じ

- カレー屋を検索するサイトと、ホテルを検索するサイトは違う
- 「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト＝文献データベースがあるということを意識する

20

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化した専門のデータベースが多数存在します。
そして検索する学術文献が、どの研究分野の文献か、日本語文献か海外文献か、図書か雑誌論文かといった点によって、使うべき文献データベースは異なってきます。
対象による使い分けがあるというのは、一般的な情報検索と同じです。
例えば、美味しいカレー屋さんを検索するサイトと、旅行先のホテルを検索するサイトは違いますよね。
「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト、すなわち、文献データベースがある、ということを意識してください。

文献データベースの機能

文献データベースのメイン機能

文献情報（＝書誌情報）を収集・整理して提供すること

付加価値としてのPDFファイルやフルテキストリンク

あくまでそのデータベースが提供できる範囲でのファイルやリンク

大阪大学で読むことができる論文が、全て利用できるようになっているわけではない

大阪大学で読むことができる論文＝良い論文とも限らない

先行研究調査では、検索と入手を切り分けて考えよう！

文献データベースでは、まず「検索」に専念し、書誌情報を得る

21

ここで、文献データベースの機能について理解していただきたいことをお伝えします。
まず、文献データベースのメインの機能は、収集した書誌情報を整理して、検索する人に提供することです。
提供されているのは「書誌情報」というところがポイントです。
最近は、文献データベース上でPDFファイルなど、全文を読めることが多いのですが、それは付加的な機能と考えてください。
データベースで見られるのは一部の論文だけで、すべての論文を読めるわけではありません。重要な論文が読めないこともあります。
また、大阪大学で読める論文が良い論文とも限りません。その研究分野で鍵となる論文が残念ながら大阪大学では読めない、ということもあります。

先行研究調査では、検索と入手を切り分けることが大切です。
文献データベースでは、まずは「検索」に専念して、必要と思われる論文の書誌情報を入手することに専念しましょう。

4.文献データベースによる
日本語図書の先行研究調査

ここからは、文献データベースを使った、日本語図書の先行研究調査について解説していきます。

適切なデータベースの選択：図書

図書のデータベース ≒ 蔵書検索システム

基本的には、所蔵しているかどうか / どこに所蔵しているのかを調べるためのもの

図書として出版されている先行研究の調査にも利用できる

所蔵している機関によって収録データベースが異なる

大阪大学の蔵書　→「**大阪大学OPAC**」

※各大学にOPAC (Online Public Access Catalog) がある

国内の大学・研究機関の蔵書をまとめて　→「**CiNii Books**」

国立国会図書館+都道府県立図書館+政令指定都市立中央図書館　→「**NDLサーチ**」

都道府県内の公共図書館をまとめて　→「**カーリル**」「**大阪府立図書館横断検索**」等

海外の図書館　→「**WorldCat**」等

図書を扱うデータベースは、多くの場合、どこにあるか、所蔵情報を調べるための蔵書検索システムとして使われますが、先行研究が図書の形で出ている場合の調査にも使えます。ただし所蔵機関によって収録データベースが違っている、ということを意識してください。
機関ごとに作成されているものもあれば、複数の機関の蔵書をまとめて検索できるものもあります。

適切なデータベースの選択：図書

日本語の学術書の検索は、基本的には以下の2つで足りる

CiNii Books	国内のほとんどの大学・研究機関の図書館所蔵資料を検索できる
国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）	国立国会図書館法によって、国内で出版された図書は国立国会図書館への納入義務があるため、国内で出版されたほぼ全ての図書が所蔵されている さらに全国の都道府県立図書館、政令指定都市立図書館の所蔵資料も検索できる

日本語の学術書の先行研究調査は、基本的にCiNii Booksと国立国会図書館のNDLサーチの2つを使えば十分です。

CiNii Booksには、国内の大学と研究機関の所蔵情報が収録されていますので、まずはCiNii Booksを活用するのが基本となります。
日本語の学術書であれば、基本的にはどこかの大学・研究機関の図書館で所蔵していると考えられるためです。
CiNii Booksに登録がない図書は、出版されたばかりでまだ所蔵されていないか、あるいは学術書でなく娯楽書であるか、のどちらかと考えていただいてかまいません。

NDLサーチでは、国立国会図書館が所蔵する資料や、全国の都道府県立図書館、政令指定都市の図書館などが所蔵する資料を検索することができます。
CiNii Booksで見つからなかった資料も、NDLサーチで見つかることがあるので、あわせて検索してみるとよいでしょう。

図書を検索するときのポイント

書名・著者名に含むキーワードでしか検索できないと想定する

- 多くのデータベースでこれが基本
- 自分の入れたキーワードと文字列として一致するかどうか

キーワードの検討がとても大切

- 同義語や類義語、上位語、下位語を検討する
- とくに大切なのが「**上位語**」（ある概念を含むより広い概念）
  - ←図書は中身の分量が多いので、自分で思いつくキーワードよりも
    広い概念が書名に入っていることが多い

25

現状、図書を検索できる多くのデータベースでは、残念ながら目次を検索できるものは少ないです。
基本的には、書名や著者名に含まれるキーワードでしか検索できません。

そして、図書を検索するときは、論文を検索するときよりも、注意深くキーワードを選択しなくてはなりません。
同義語や類義語だけでなく、広い概念の上位語、より狭い概念の下位語なども検討してみましょう。とくに大切なのが「上位語」です。
論文にくらべて、図書は扱っている内容の分量が多く、思いついたキーワードよりも広い概念が図書のタイトルになっていることが多いです。
そのため、入力したキーワードでの検索結果が思ったより少ない場合は、上位の概念にあたるキーワードで、再度検索してみてください。

CiNii Booksについて https://ci.nii.ac.jp/books/

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

「図書・雑誌」検索タブで目次が検索できるのはほんの一部の資料のみ

AND, ORなどの論理演算子も使える

「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明の検索ができる

ただし、あくまで目次データを持っている資料が対象

全ての資料に対して目次を検索できるわけではない

CiNii Booksについて紹介します。
CiNii Booksにアクセスすると、初期選択で「図書・雑誌検索」タブになっています。この状態では、目次が検索できるのはほんの一部の資料のみで、基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できません。
ここから、「内容検索」タブに切り替えると、目次や内容説明を検索できる資料が増えます。
「図書・雑誌検索」タブでの検索でヒットする資料が少ない場合は、「内容検索」タブを試してみても良いでしょう。ただし、全ての資料に対して目次を検索出来ているわけではないので注意が必要です。

CiNii Booksでは、キーワード検索に、AND, ORなどの論理演算子を使うことができます。これについては次の5章で説明します。

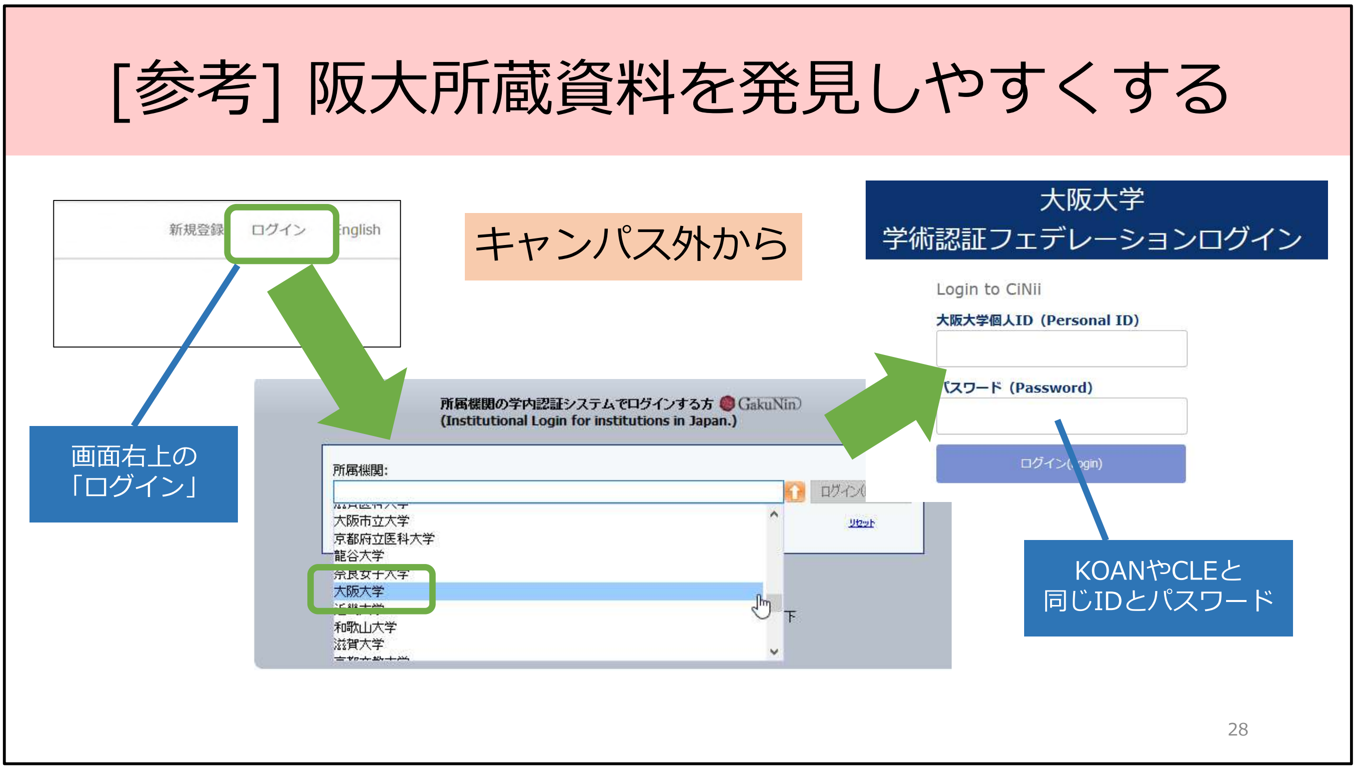
[参考] 阪大所蔵資料を発見しやすくする

CiNii Booksを「大阪大学」モードにすると、
大阪大学所蔵資料が
一番上に表示されて便利

キャンパス内からのアクセスであれば
自動的にこのモードになる

大阪大学の
所蔵資料

CiNii Booksについての参考情報です。
大阪大学のネットワークからCiNii Booksを検索すると、所蔵館リストの一番上に大阪大学の図書館が表示されるようになっていて、大阪大学で所蔵があることが一目でわかって便利です。当たり前ですが大阪大学に所蔵がなければ、所蔵館リストには出てきません。



キャンパス外からアクセスしたときも、大阪大学の図書館を所蔵館リストの一番上に表示することが可能です。
方法としてはこのスライドのとおりで、CiNii Books画面右上の「ログイン」から、所属機関に大阪大学を設定し、大学の個人IDでログインしてください。

国立国会図書館サーチについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

目次が検索できるのは一部の資料のみ
AND, ORなどの論理演算子も使える

https://ndlsearch.ndl.go.jp/

国立国会図書館サーチで目次データを検索するには
https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/plan/post_1014

2つのデータベースで目次データの主な収録年代が違います。
・CiNii Booksの「内容検索」は1986年以降が主
・国立国会図書館サーチは1987年頃までが主

次にNDLサーチについて紹介します。こちらも、基本的には書名・著者名・出版者名で検索できるシステムですが、一部の資料については目次を検索できます。目次を検索したいときには、資料種別を絞り込まないようにしてください。

CiNii BooksとNDLサーチでは、目次データの主な収録年代が違います。
CiNii Booksの「内容検索」タブでは主に1986年以降の比較的新しい資料、NDLサーチでは（件数的にデジタルコレクションが多いので、）主に1987年頃までの比較的古い資料の目次データが多くなっています。
とはいえ、実際にNDLサーチを検索してみると、論文集に含まれる個々の論文のタイトルが検索できたりと、最近の図書が内容でヒットすることもあるようです。どうぞ使ってみてください。

OPACでの先行研究調査では不十分？

あくまで大阪大学で所蔵している範囲での検索となる

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ある

大阪大学の図書館で所蔵している資料
→基本的にCiNii Booksに登録されている

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの中身も基本的に含んでいる

例外：電子ブック / 冊子でも古い資料や一部の研究室所蔵資料はCiNii Booksに未登録

OPACも書名・著者名・出版社名などでしか基本的に検索できません
検索仕様は以下のとおりで、()での掛け合わせはできません。

AND検索　SNS△Instagram
OR検索　SNS△+△ Instagram
※「△」はスペース。半角でも全角でもOK。
※「+」は必ず半角で入力

日本語の先行研究を調べるときに、まずは阪大OPACを使われると思いますが、阪大OPACで検索できるのは、阪大が所蔵している図書に限られます。重要な文献が他大学にしかない場合もあるため、阪大OPACだけでは不十分です。
阪大が所蔵している図書は、基本的にCiNii Booksにも登録されていますので、CiNii Booksを使えば阪大OPACの内容も含めて概ね検索できると考えてください。
つまり、先行研究を幅広く把握するためには、CiNii BooksとNDLサーチの両方を使って調べるのが効率的でおすすめです。漏れなく正確な先行研究調査を行うという観点からすると、CiNii BooksとNDLサーチの両方を活用して、日本語の学術書を幅広く探すと良いでしょう。